

獅子、雌獅子の3つである。この獅子舞の歌と踊りは部落ほめ、庭ほめ、さなぶりの雌獅子がくし等、獅子舞の基本的形式を残している。獅子は3匹とも鶏の尾羽根を付け、前ぼうと呼ぶ藍地にぼたんの花を染抜いた麻布をかぶり、浅黄に唐草風な染付の単衣の着物に袴をはき、白たびにわらじばきといった出立ちである。ささら摺りも同じ衣装で、大竹(約1.8m)の上部に千本(花)をさし、下部に刻目のつけられたささらを持ち、右手の割竹で刻目を摺りながら舞う。道化(火男)は一人で単衣の着物にたっつけ袴で、獅子の間を縫い回る。さなぶりには道心棒を使う。はやし方は紋付袴ではやしを受け持つ。

#### ○祭日

10月1日の例祭には上、下組が毎年交替で獅子舞を勤めるが、当番の組の旧家が交替で宿となり、その宿を中心とした踊りの組が奉納する。まず当日は宿で腹ごしらえをした後、笛、太鼓で行列をしながら神社に行き獅子舞を奉納する。その後二日間にわたって部落を踊り巡り、最後に宿に戻ってさなぶり舞を納める。祭がすむと翌年の当番の家に、小長持の箱に記録、諸道具、衣装を入れて保管を頼む。昔、祭日は旧8月15日であったが現在は10月1日となっている。

## 小綱木 八幡神社獅子舞

〔所在地〕 川俣町小綱木字的場23番地

▷町指定無形文化財

#### ○伝承

同社は元禄11年戌寅(1698)3月勧請と伝えられるが、「小手風土記」には帷子堂とあり、安達郡片平村より移すと記されている。獅子舞の記録は明和4年(1767)時代のものから残されており、それ以前の記録については存在が確認されていない。同記録には獅子舞の衣装の補修の事とか、その年の豊凶、米や繭の相場等が記され貴重な資料である。



小綱木八幡神社 獅子舞